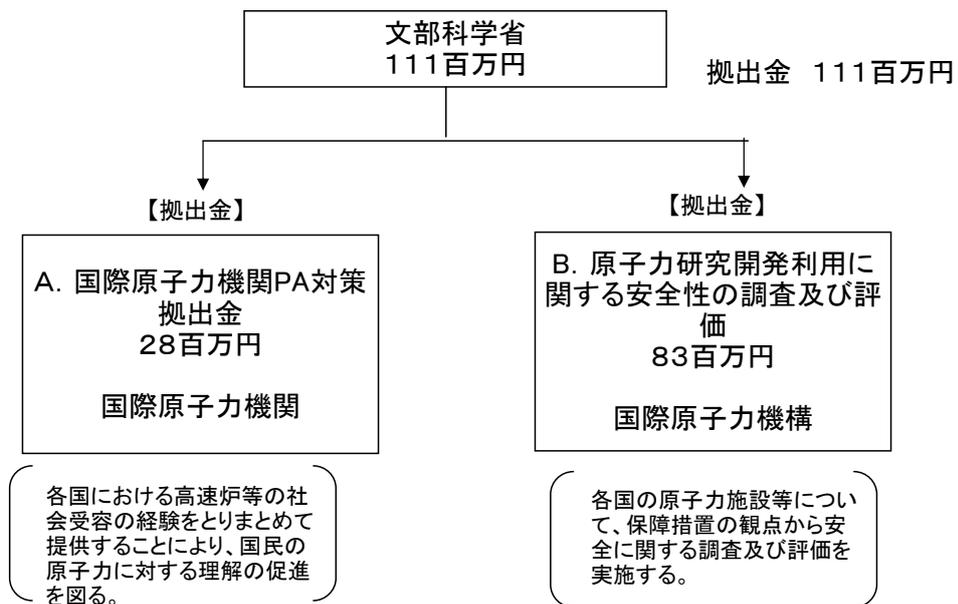


行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	国際原子力機関拠出金		事業開始年度	平成元年度	作成責任者	
担当部署	研究開発局		担当課室	研究開発戦略官付	研究開発戦略官 片岡 洋	
会計区分	エネルギー対策特別会計(電源開発促進勘定)		上位政策	原子力分野の研究・開発・利用の推進		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	特別会計に関する法律施行令第51条1項4号		関係する計画、通知等	原子力政策大綱(H17年10月11日 原子力委員会決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際原子力機関(IAEA)に特別拠出金を拠出し、原子力発電施設等の設置の必要性に関する知識の普及、原子力研究開発利用に関する安全性の調査及び評価を行い、わが国の原子力政策に反映し、もって原子力施設の設置及び運転の円滑化に資する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国際原子力機関(IAEA)にて実施されている以下のプロジェクトについて特別拠出金を拠出する I. 国際原子力機関PA対策拠出金 各国における高速炉等の社会需要の経験を取りまとめて提供することにより、国民の原子力に対する理解の促進を図る。 II. 原子力研究開発利用に関する安全性の調査及び評価 各国の原子力施設等について、保障措置の観点から安全に関する調査及び評価を実施する。					
実施状況	特別拠出金により実施された事業の成果をまとめた報告書についてはIAEAより随時日本国内の研究所・大学等に配布されている。また、事業の実施に当たり文部科学省やJAEA等各種関係機関より職員を派遣し、事業の実施状況について随時確認を行う。 また、事業の成果を広く発表する目的で実施される国際会議を開催している。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	138	135	111	110	77
	執行額	138	134	111		
	執行率	99.7%	99.4%	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	138	134	111		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	当該拠出金によって実施されるプロジェクトに従事する邦人職員より、月に一度プロジェクトの進捗状況に関するレポートを受領すると共に、拠出金調査として担当者が現地へ赴き、事業の進捗・成果・今後の見通し等について調査を行った上で拠出額の調整を行っている。 また、国内の原子力政策により合致したものとなるよう、随時事業内容の改善を図っている。				
	見直しの余地	事業の成果、国内政策へのフィードバック等を確認した上で、拠出の可否及び額の見直しを行う。				
予算・監視・所見の効率化	1. 事業評価の観点:国際原子力機関(IAEA)に特別拠出金を拠出し、原子力発電施設等の設置の必要性に関する知識の普及、原子力研究開発利用に関する安全性の調査及び評価を行い、わが国の原子力政策に反映し、もって原子力施設の設置及び運転の円滑化に資する事業である。 2. 所見:本事業は20年以上の継続事業である。事業の継続の必要性は認められるものの、これまでの事業の成果を適切に検証し、より効果的な事業にするとともに経費の効率化により予算を縮減すべきである。					
補記						

【国際原子力機関拠出金】



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。
 使途と費目の
 双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.国際原子力機関			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
拠出金	国際原子力機関PA対策拠出金	28			
計		28	計		0
B.国際原子力機関			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
拠出金	原子力研究開発利用に関する安全性の調査及び評価	83			
計		83	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0